

傾斜用草刈機の安全講習

- 1 刈払機の安全講習……………1P
- 2 自走式草刈機の安全講習…9P

[実施日] 令和4年7月5日
[場所] 佐用町仁方 地内

1 刈払機の安全講習

初心者のための刈払機の安全使用

農業機械による農作業中の死亡事故や傷害事故は相変わらず高水準なまま推移しています。**農作業中の死亡事故は一般的な労働災害による死亡事故の 2.5 倍の発生率**となっています。また、死亡に至らないまでも傷害を伴った事故発生率も他産業の事故と比較して極端に大きくなっています。

日本農業の特徴は農業従事者に高齢者が多いこともあり、とっさの回避行動が遅れるなどが原因にもなっていると思われます。

筆者は現在某公園での管理作業に従事していますが、そこの作業員はほとんどがサラリーマン出身者で、刈払機など使った経験の無い人が多くそのような人たちが我流で草刈を行っているのを見て、目をつぶりたくなるような場面に遭遇することが何度かありました。

初心者は事故の結果がどのようなものかの認識が薄く同じようなことを何度も繰り返してしまっています。

参加者の方々は農作業のベテランばかりですので今更の感が強いでしょうが、刈払機の安全作業について、資料を作成しましたのでご報告します。

1. 初めての機械は取扱説明書をよく読みましょう

事故の大半は間違った使い方や、不注意、見込み操により発生しています。取扱説明書には正しい操作方法がきめ細かく記載されていますので、特に危険マークの項目は熟読することが重要です。警告マークや注意マークの項目も注意伊深く読み理解しなくてはなりません。

(参考) マークとその意味

マーク	危険ランク
 危険	指示を守らないと死亡または重傷を負うに至る切迫した危険性を示します。
 警告	指示を守らないと死亡または重傷を負う可能性がある危険性を示します。
 注意	指示を守らないと軽傷または中程度の傷害を負う可能性がある状況を示します。 また物的損害の発生のみが予測される場合も使用します。

取扱説明書には安全作業だけでなく点検やメンテナンスなど重要事項が目白押しですのでいつでも見れるよう機械のそばに保管し、失くさないようにしましょう。

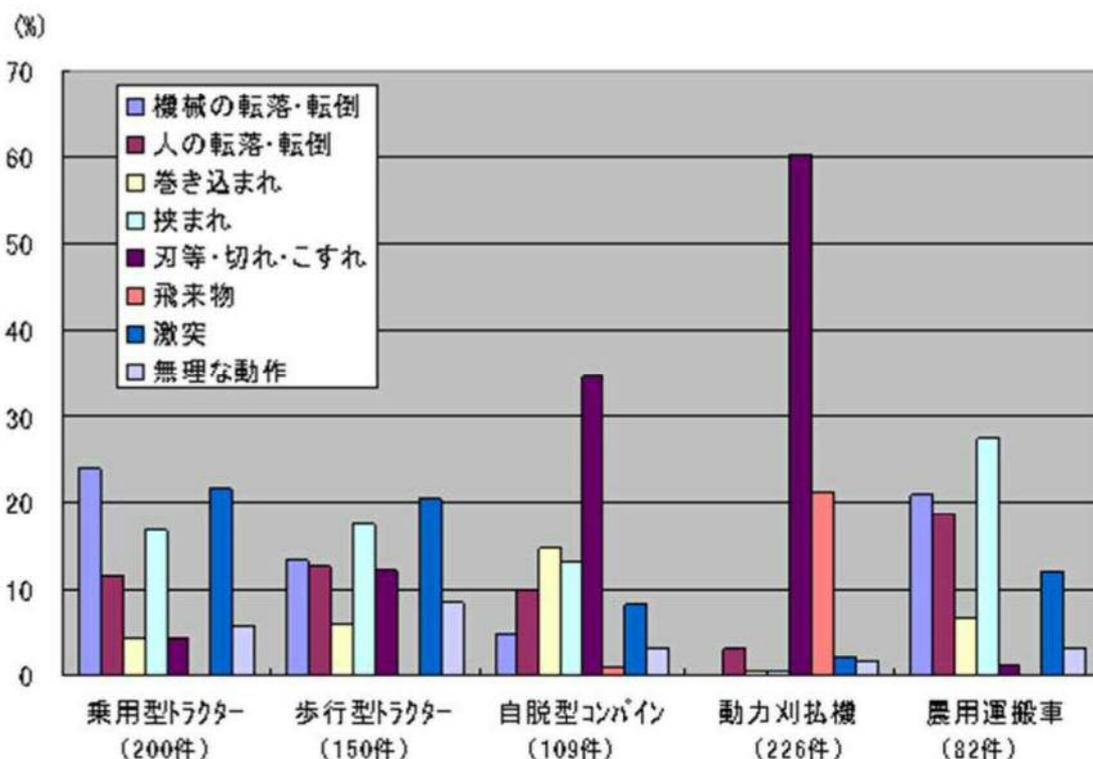
2. 作業に合った服装をしましょう。

高速回転する刈刃は非常に危険です。刃に直接触れて切傷する他、飛び石や破損刃のかけらが当たり怪我をするケースが多く見受けられます。怪我を防止するためには適切な服装で作業することも非常に重要なことです



保護メガネとフェイスシールド

農業機械傷害事故調査結果（平成 13 年）より



刈払機は刃による切傷と小石等が回転刃により飛ばされて身体に当り負傷する例が圧倒的に多くなっています。

安全靴やすね当ては回転刃が触れたときの切傷を防ぎ、防護メガネやフェイスシールドは飛散物から顔を守ります。ナイロンコード使用時には特に飛散物が多くなりますのでフェイスシールドは必需品です。

3. 機械の作業前点検および整備を行います。

異常な状態のまま使用すると、刃が割れたり、欠けたりしたものが周囲に飛び散り作業員や周囲の人に当たる可能性があります。刃の破片が目刺さり失明する事故も報告されています。

飛散防護カバーが装備されているかも重要です。**カバーがあるため刈草が巻きつきやすいとの理由で外したまま使うなどは論外**です。

点検は燃料の有無の他各部のねじ類のゆるみがないかもチェックします。

作業前点検の最後は**緊急離脱装置が正しく作動するかどうか**、エンジンを始動しない状態で確認を行います。

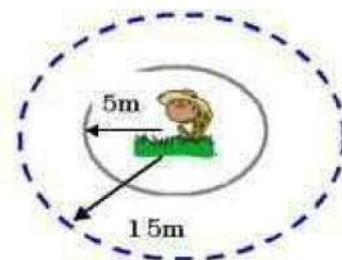


4. 刈払い作業の前に作業現場の環境を整備します。

- (1)木の枝、空き缶、石など刈刃に当たって飛び跳ねるものを取り除きます。
- (2)刈刃に巻き付きそうな、テープ、針金等も取り除きます。測量杭等除去できないものへ目印を付け、作業中当たってしまわないようにします。

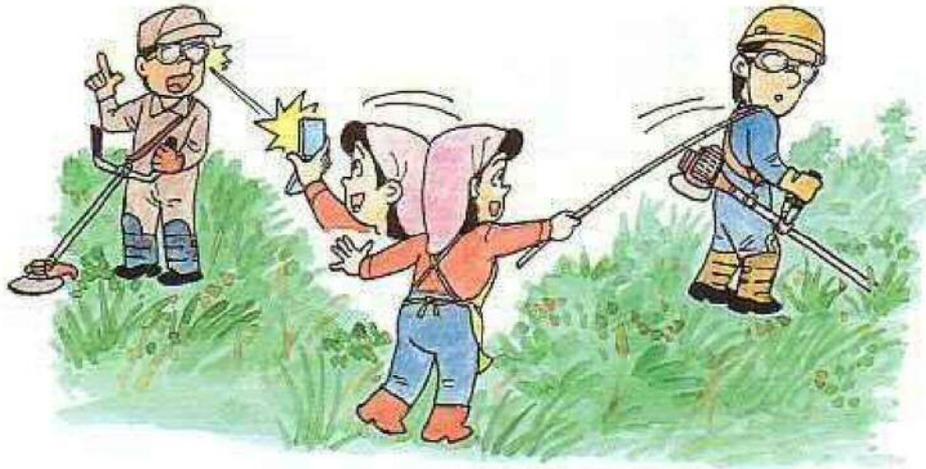
5. 複数で作業する場合は安全距離を確保します。

- (1)刈払い作業中の作業員には近づかない。どうしても近づくとときは15m以上離れた場所で作業員の視界に入る位置で合図を行い、作業員がエンジンを止め刈刃の回転が止まったことを確認してから近づきます。



後方から近づいて肩をたたいて知らせると、作業者が振り向いて脚を切られるおそれがあります。後方からしか接近できないときは、長い棒のようなもので作業者に接近を知らせます。

(2)刈払い作業中は作業員から**5メートル以内が危険区域**です。安全作業上は**15メートル以上離れて作業**するのが望ましい状態です。



6. 傾斜地では足場の確認を十分に行います。

(1)傾斜地は、足元が滑りやすく、崩れることもあります。傾斜地で転倒し、刈刃に触れてケガをする事故が多発しています。一歩ずつ足場を確認しながら作業しましょう。

(2)高低差のあるけい畔、水路、堤防等の法面は、傾斜地が多く特に注意が必要です。

***** 急傾斜地での刈払い作業方法 *****

急傾斜地を下方に向かって刈り進むと、足を滑らせ転倒し、刈刃で身体を損傷する恐れがあり大変危険です。急傾斜地で下方に向かうと身体が不安定になり、転倒しやすくなるとともに刈刃が足に近くなります。急傾斜地で刈り払い作業が不安な場合は鎌で危険場所を事前に刈り取っておきましょう。

7. 刈払機は木に当てないように動かしましょう。

(1)刈刃を岩、石、切株等障害物に接触させると作業員側に跳ね返される恐れがあります。刈刃を木へ押し当てたり、地面に喰い込ませないように注意します。

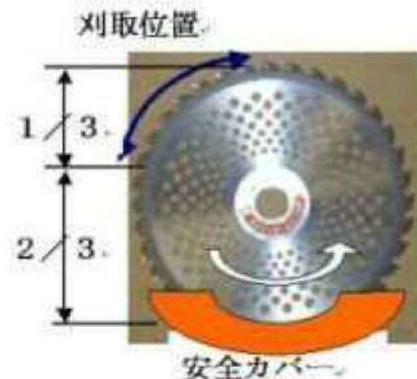
(2)刈刃を膝より高く持ち上げて使用すると飛散物が顔面に飛んでくることがあります。膝より低くして使用します。

8. 刈刃の切断位置は前方左側1/3の位置を使いましょう。

(1)草類を刈り取る場合は刃のいずれの部分でも刈取れますが、左回転の刃の場合は図のように前方左側1/3の部分を使用します。

一般的な刈払機は、刈刃が反時計回りに回転します。そのため右側で刈ると作業員側に跳ね返されて(キックバック現象)、刈刃と接触する恐れがあります。必ず左側で刈り払います。

(2)往復刈りではキックバックが発生する危険性が高いことや、一度切られて残っている切り株を再度たたき切るため、これが小片となり飛散しやすくなります。



9. 異常を感じたらまずエンジンを止めましょう。

刈刃に草が巻きついた、機械の振動が激しくなった、灌木に刃が喰いついたなどの機械の異常や身体が滑りそうになったなど、正常な作業ができなくなったときには

まずエンジンを止めて安全を確保します。

エンジンの再始動が面倒だとして、草わらの巻きつきをエンジンを止めずにとろうとしている光景を私の勤務先でもよく見かけます。

慣れているから大丈夫は怪我の元です。負傷してからでは遅すぎます。農業機械の中では負傷事故の最も多い機械である刈払い機を安全に使って事故を減らしましょう。

トピックス

ハチに刺されたら

昨年作業中にオオスズメバチに刺され大変な目に逢いました。少し深い草むらなどには思わぬところにハチの巣が隠れている場合があります。

もしハチに刺されたら応急手当をした後必ず病院で適切な手当てを受けることが大

切です。

万一刺されたら まず、注入された毒液を速やかにかつできるだけ多く取り除くことが重要です。ハチの毒は水に溶けるので、刺された部分を両手の指で強くつまんで毒を絞り出しながら水で洗い流します。アンモニアがハチの毒を中和するというのは間違いです。薬としては、抗ヒスタミン剤を含有したステロイド軟膏を塗ります。

応急処置が済んだら、すぐに近くの病院へ行きましょう。ショックの兆候が見られたら、救急車を呼ぶことも考えましょう。もしアナフィラキシーショックが起きると、短時間のうちに危篤状態になります。

「アナフィラキシーショック」

これは一種の抗原抗体反応(アレルギー反応)です。最初に刺されたとき、その毒(タンパク質の一種)に対する抗体が体の中にできるため、次に刺されたときに、毒(抗原)に抗体が激しく反応して強いショック症状を起こします。治療が遅れると死亡します。たった1匹に刺されただけでも死に至ることがあるのです。



オオスズメバチ

2 自走式草刈機の安全講習

2. 各部の名称とはたらき

2.1 各部の名称



1. ご使用の前に〈安全にお使いいただく為に、必ずお読みください〉

1.1 作業条件



警告

- 1) 本書の内容を理解できない人は使用しないでください。
- 2) 所有者以外の方は使用しないことが原則です。やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、本機とエンジン(該当製品)の「取扱説明書」をそれぞれ熟読し、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導してください。
- 3) 過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業しないでください。
- 4) 酒気を帯びた人、妊婦、子ども(中学生以下)、未熟練者にも作業をさせないでください。
- 5) 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、適切な服装で行ってください。くわエタバコ、巻き(腰)タオルは厳禁です。
- 6) 製品に応じて、滑り止め(スパイク)のついた安全靴(長靴)やヘルメット(帽子)、防護眼鏡、手袋、スネ当て等の適切な装備を使用してください。

1.2 作業をする前に

1.2.1 作業前の注意事項



危険

排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。屋内など換気が不十分な所では、運転や作業はしないでください。



警告

- 1) 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないでください。
(カバーの切断、標準品以外の装着、指定外のベルト・オイルの使用、安全装置の取外し等)
〈これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。〉
- 2) 周囲に人や動物、車両や設備、建造物等の有形資産がない事を確認してください。また、周囲の安全を確認して、圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩など危険な場所や注意が必要な場所には目印などを設けて近寄らないでください。
- 3) 石やその他の異物は事前に取除き、除去不能な障害物などがある場合には、注意標識又は作業禁止範囲を示す安全柵などを設けた後で作業を始めてください。また、このような圃場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行ってください。ナイフが欠けたり、石等の異物が飛散し危険です。
- 4) 転落防止のため、川や崖や段差(路肩)を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性を考慮し、十分に安全な平坦地を走行してください。
- 5) 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないでください。


注意

- 1) 雨天時や水たまり等本機が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
- 2) その他気象条件等に留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

1.2.2 作業前の点検・確認


警告

- 1) 前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないでください。
- 2) 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている安全装置及び関連部品を外したままの運転は非常に危険です。事故防止のため、これらの部品は必ず装着した状態で使用してください。もし異常がある場合は修理を行い、正常な状態を確認してから作業をしてください。
- 3) 作業クラッチ（ナイフクラッチ等）が「切」位置の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ベルト押え、ワイヤを調整してください。
- 4) ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めてください。また、古いものは新しいものに取り換えてください。
- 5) ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用してください。
- 6) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。
また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、HSTファンカバー（該当製品）に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。

1.2.3 火気厳禁・燃料の給油


危険

- 1) **作業中及び給油中は火気厳禁です。**引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対行わないでください。
- 2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。
- 3) 給油は油面上限マークがあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- 4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

1.3 作業中は

1.3.1 作業中の注意事項



- 1) 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 2) 無理な姿勢で作業を行わず、体調に合わせ1～2時間程度で休息を取るようになしてください。
- 3) 作業範囲内（半径10m以内）に人(特に子供)やペットが入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内に近づけないでください。人やペットが近づいた時には直ちに作業を中断し、エンジンを停止してください。
- 4) 運転中、周囲に燃えやすい物や危険物を置かないでください。また排気マフラーは高温となります。本機操作時・作業終了直後等に手をかけると、火傷を負う恐れがあります。
- 5) 斜面での作業は、勾配が50°以下でご使用ください。上下方向よりも横方向（等高線方向）に行うようになしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちてくる、作業者の足が滑って本機に巻き込まれる等の恐れがあります。
- 6) 滑り止めなどの注意を十分行って、それでも滑りやすい場所では作業を行わないでください。

1.3.2 操作上の注意事項



- 1) 始動時は走行(主)クラッチ、作業(ナイフ・ロータリー)クラッチを「切」位置にし、中立のあるものは変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動してください。
- 2) 斜面での旋回等の操作は十分に注意して行ってください。バランスを崩し、転倒してけがをする恐れがあります。
- 3) 斜面では、安全のため、変速レバー・クラッチレバー類の不要な操作は行わないでください。スリップ・転落・滑落等の危険があります。
- 4) バックする時は、人(特に子ども)・動物・障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖や段差からの転落等がないよう足場に注意してください。(該当製品)
- 5) 木の周りや壁際などの作業時は、ハウスの支柱や木の枝、鉄線等と本機との間に体や手を挟んだり、枝での打撲・挟まれに十分注意して作業を行ってください。
- 6) 旋回時は特に足元に注意し、作業部(ナイフ・爪など)、走行部(タイヤ・クローラー等)に巻き込まれないようになしてください。
- 7) 刈取方向を切り替える時には、その前後方向の安全性を確認した後に行ってください。
- 8) 作業(ナイフ・ロータリー)クラッチは、人(子ども含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作してください。

1.3.3 作業中の点検・停止・清掃



- 1) 作業中、異物と衝突（噛み込み）した時は直ちに作業（草刈・耕運など）を止め、エンジンを停止してください。そして、必ずナイフ・ナイフステー・爪類（該当製品）及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正・交換ください。
- 2) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。
また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、HSTファンカバー（該当製品）に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。



- 1) 作業中に点検する際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えてから、手を保護するために皮手袋などの丈夫な手袋を着用してください。
- 2) 本機より離れる時は、必ずエンジンを止めてください。また、安定した平坦地で確実に停車してください。
- 3) エンジンを止める際は、該当する製品については次の事を行ってください。
①ブレーキをかける。②キーを抜く。③燃料コックを閉める。
- 4) 運転中の異常な音、匂い、発熱は火災の原因となる恐れがある為、直ちにエンジンを停止し、点検・修理してください。
- 5) 作業中、異物と衝突（噛み込み）した時は直ちに作業（草刈・耕運など）を止め、エンジンを停止してください。そして、必ずナイフ・ナイフステー・爪類（該当製品）及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正・交換ください。
- 6) その他作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止してから、点検を行ってください。

1.4 載せ降ろし及び運搬時の注意



- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止してください。燃料漏れなどによりこぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) 必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

1.5 点検・整備

◎品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。

始業前点検・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼ください。

〈定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意ください。〉



下記に記載の内容を守らないと火傷や傷害事故、機械故障の原因となります。

- 1) ご使用前後に、日常の点検、整備を行う他、定期的に点検、整備を行って常に製品を安全で快適な状態に保つようにしてください。
- 2) 点検、調整、整備はエンジンを停止し、マフラ部やその他ミッションケースの過熱部位が完全に冷えてから皮手袋などの丈夫な手袋や保護メガネを着用し、適正な工具を正しく使用して行ってください。
- 3) 点検、調整、整備は地面が平坦で硬く、広くて明るい場所で行い、常に機体のバランスに留意し、転倒させない様に十分注意してください。
- 4) 本機を吊り上げて点検する場合には、必ず落下防止を行ってください。
- 5) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）の交換や着脱を行った場合は、指定の場所に確実に装着されているか、しっかりと締め付けしているか確認してください。
- 6) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）を新品に交換する際には安全のため取付けボルト類も一緒にメーカー純正品の新品と交換してください。
- 7) ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検し、必要な修理を行ってください。また作業終了後に再度点検してください。
- 8) 取外したカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けてください。
- 9) 指定外のアタッチメント取付けや、改造は絶対にしないでください。
- 10) 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年毎、または傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換してください。



下記に記載の内容を守らないと機械故障の原因となります。

- 1) 本機を洗車する場合は、エンジン部（電装部、エアクリーナ付近、燃料キャップなど）及び警告ラベル貼付け箇所に水をかけないでください。
- 2) クラッチ類、スロットル、ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- 3) シートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後「約5分以上」待って、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。

1.6 保管時



- 1) 本機を長期保管する場合は屋内で保管ください。（5.5 長期保管のしかた 参照）
- 2) 本体や作業部に付いたごみや付着物・異物は取り除いてください。

1.7 警告表示マーク



- 警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選され、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読み頂き、十分理解して必ず守ってください。
- ※ 警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを販売店で購入、貼り換える等して常にはっきり識別できるようにしてください。（6.3 消耗品明細 参照）

(4) 自走式草刈機の事故

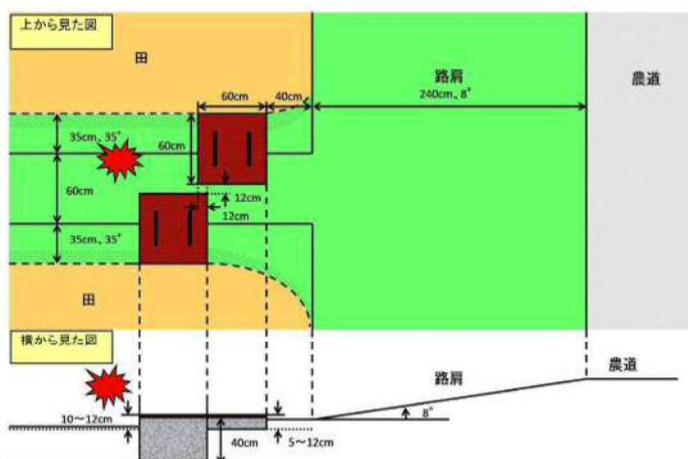
2. 草刈機 (4) 自走式草刈機の事故 ① 一構造物の乗り越え

21

自走式草刈機で用水マスを乗り越えたとき、転倒を避けようと右腕を強く持ち上げ、肩の腱板を損傷 (平成26年5月上旬 畦畔にて 14時頃 男性・67歳)

事故の概況

自走式草刈機で畦の草刈作業をし、午後1時頃から隣集落の水田に移り畦の草刈作業をしていた。午後2時頃、農道から畦畔に向かって草刈を始めようとしたが、路肩から40cmほど入ったところにある60cm四方のコンクリートの用水マスを乗り越えたときに、自走式草刈機が右に傾き転倒しそうになった。転倒を避けようと右腕を強く持ち上げたとき、肩が「ギク！」と音がした。ひじは曲がるが肩が上がらなくなり、仕事を続けることができなくなった。痛みが強かったので、トラックに乗り事務所へ帰り、着替えをして病院で治療を受けた。



事故原因と対策

用水マスは60cmの真四角で上に鉄板が乗っており、鉄板と畦との間には12cmの段差があり、鉄板を乗り越えたときに段差で自走式草刈機がバランスを崩して右に横転しそうになった。もともと、自走式草刈機は2輪で横に振れ易い。また、この時、走行速度を高速にしていたため、バランスを崩し易かった。また、高齢であるにも関わらず、倒れそうになった草刈機を力尽くまで支えようとして受傷してしまった。

なお、その後畦と溜め升の段差を無くすため、図の左のように改修した。また用水マスは段差があるのでゆっくりと進むこととした。



事故前の溜め升

事故後、段差を無くした溜め升

2. 草刈機 (4) 自走式草刈機の事故 ② 一刈り残しを刈るためバック 22

自走式2面草刈機で方向転換後、後退中、草刈機もろとも5m下の崖に転落。腰椎骨折・入院38日 (平成26年6月中旬 畦畔にて 午後6時半頃 男性・68歳)

事故の概況

高台にある水田の畦畔を、2面草刈り機(2輪駆動式)で草刈りを実施していた。あぜの長手方向の天端(畦の2辺)を刈り終えて、直進方向のまま停止した。次に草刈り機構の動力を絶ち、そのまま後退し、次いでハンドル下げて、機体前をあげ前進しながら左へ方向転換し終えた。ちょうど、身体の下地の角地の雑草が少し残っているのが、気になった。この部分を草刈りしようと、草刈り機構を稼働させ、同時に後退ギアに切り替え、後退・作業を始めたとき、草刈機もろとも、約5m下の畦畔隣接の排水路に転落した。下敷きになったものの、機械を横に払い除けた。痛くてしばらくは起き上がれなかった。

排水路の前方圃場の畦は1.5mほどであったので、エンジンを始動させて、前方圃場のあぜに乗せ上げた。ちょうど、同じほ場にいた妻が異変に気づいて様子を見に来たので、軽トラックを前方の圃場に接する農道まで移動させるよう指示をした。草刈り機を自ら操作して、100m先の軽トラックに乗せて、自宅に戻った。

事故が発生して、一旦自宅に戻った。消防署に勤務する知人をお願いして、地元の市立病院に救急治療の手配をした。事故後、1時間ほど経った19時半頃に、妻の運転する自動車と病院に到着。すぐに、X線検査などをし、頭部打撲があるも少しの内出血程度で、腰椎骨折のみ。診察・治療が終わったのは、20時半であったが、そのまま入院となった。



事故原因と対策

高台にあるあぜなので、当然しっかりと「うしろ」を確認しながら後退すべきであった。1輪駆動の機械ならこれほどでも無かったと思うが、後退ギア付きの2輪駆動方式であるため、瞬時に停止できなかった。後退しながらの草刈り作業は、禁則であることも承知している。このくらいと思ったことが良くない結果となった。6月の18時半はまだ明るい、早く終わらせたい焦りがあり、また勤務が終わったあとの作業であり、疲れもあったか。

事故を起こした草刈り機は、前後バランスは以前使っていた機種に比べて良いが、重心が高くて、刈取り部が左に位置することもあって、操作ハンドルが左に捕られることが多いと思う。普段、メンテナンスはあまり実施していない。草刈り高さの調節レバー(本機部分、左サポート輪)についても、こまめに調節は行っていない。

自走式草刈機で畦畔の除草作業中、刈り残し部分を刈ろうとして機械をバックさせたところ、雨に濡れた畦畔で足を滑らせ、左足が刈刃に接触した。

(平成25年6月下旬 畦畔にて 午後6時半頃 男性・60歳)

事故の概況

小雨が降る中、自走式草刈機（歩行型ロータリモア、使用年数1年目）で畦畔の除草作業を行い、約2時間が経過していた。角の部分の刈っている時に、一部の刈り残しを見つけたため、機械をバックさせながら刈ろうとして、左足が前方に滑り、つま先が刈刃カバーの中に入った。被害者が履いていた安全靴に刈刃が当たった抵抗で機械のエンジンが止まった。

作業を中断し、自分の運転で病院（救急外来）に行った。あざがあり、しびれもあったが、レントゲン撮影の結果、骨には異常はなかった。親指の爪が内出血しており、後日、爪が生え替わった。



事故原因と対策

前例と全く同様に、刈り残しが気になりバックした際の事故。足場が狭く、危険とは思いつつバックした。この機械は、バックしながらも刈り取れる構造の機械。刈刃カバーの後端から刈刃先端までの距離が短く（約60mm）、入り込んだつま先が接触してしまう構造だった。

ほ場隅の畦畔や障害物の近傍では、自走式草刈機は取り回しが難しい。天端の幅が約50cmと足場が狭く、隣の水田と約40cmの高低差があった。また、雨が降っており、草に覆われた畦畔は滑りやすい状態だった。

いずれにしても、自走式草刈機は方向転換するスペースが十分あったり、バックしたさいも余裕のある場所で無いと、無理である。今までの畦畔は、このような機械の登場を想定せずに作れており、機械と環境のミスマッチである。畦畔の角などのように狭い場所の草刈りは自走式草刈り機では難しいため、刈り残しは刈払機で対応するなどの対応が望ましい。

なお、本人は安全靴を履いていたため、大惨事には至らなかった。

2. 草刈機 (4) 自走式草刈機の事故(モア) ④

24

自走式モアで草刈り中、モアが溝に落ち、引き上げようとバックした時転倒し、右足がモアに巻き込まれ、右脚切断。

(平成25年11月下旬 牧草地入り口 14時頃 男性・73歳)

事故の概況

離島で牛を肥育。牧草地は1.8ha、年5回、牧草を刈り取っている。当日、刈り取りを委託した人のトラクターが入りやすいように、30aの牧草地の入り口付近の草をモアで刈り出した。モアが、幅70cm、深さ27cmの溝にはまり、バックギアを入れて引き上げようとした時転倒。右脚に自走式モアのタイヤが乗り、突き出た足が回転するモアに触れ、足首がちぎれた。何とか身を起こしてクラッチを切った。服装は、作業着にキャップ帽、軍手、通常の長靴。軍手で傷口を押さえた。

受傷後約10分後仲間が来た。仲間の車で約10分かけ近くの診療所へ、すぐに公立病院に搬送、さらにドクターヘリで本島の病院へ搬送、午後5時頃到着。右下腿多発開放骨折、右前頸骨動脈損傷。足首と下腿の骨が損傷し草やゴミが付着しており、切断した方が後々治りがいい、と言われ、切断。20日間入院。さらに公立病院へ転院、翌年の2月まで入院。その後4ヶ月を経過した現在は、リハビリのため通院。義足は足に当たる部分が痛い。



事故原因と対策

現場の草丈は約60cmと高く、溝は完全に隠れその存在に気がつかず、溝にモアを落としてしまった。また、引き上げるとき、モアの回転クラッチを切らずに、バックさせた。本人の性格は日頃ゆったりしているが、作業になると気がせき、とのこと。

機械は古くて約20年前から使っている。バックギアを入れたら、モアの回転が止まるようにすべきとも考えられる。(新型は、止まる)



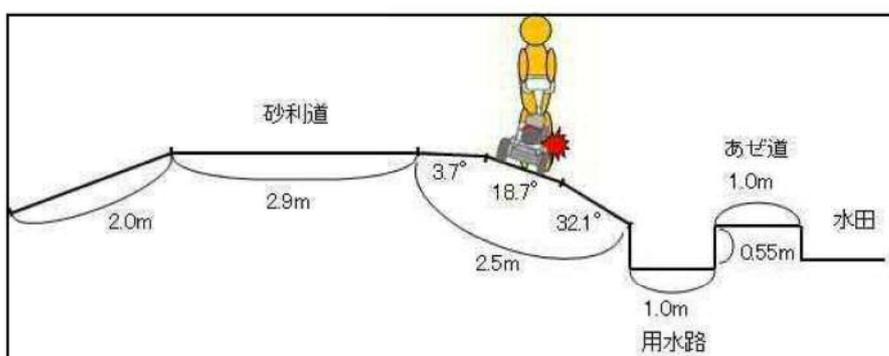
自走式草刈機で農道の草刈中、小石がはねて左足に当たり、左膝靭帯打撲。

(平成26年8月上旬 農道 11時頃 男性・43歳)

事故の概況

自走式草刈機(4輪駆動のスパイダーモーター)で水田と農道の草刈作業を行っていた。水田は1ha圃場で長さ125m、幅100mで、農道ターン式であることから、草を刈る面積が広く、1枚仕上げるのに4時間くらいかかる。事故にあった農道は用水路側で、用水路から1.5mほど入った所で傾斜18.7度の勾配があった。自走式草刈機の刈取り高さは4段階のうち3段目の高さで、前進の高速で草刈作業を行っていた。自走式草刈機の刈取りカバーと地面は6~6.5cmの隙間があり、この隙間から小石が飛んできて、左足に当たった。

事故発生後、しばらく草刈作業を続けていたが、痛みが強くなり腫れてきたので家に帰り、午後にな



なって自分で運転して近くの医院で治療を受けた。左膝靭帯打撲。

事故原因と対策

環境的には、農道の中央には砂利が敷きしめられ、路肩の傾斜地では砂利に土が混ぜられている。ところどころに砂利が飛出しておりその石に草刈機の刃が当たり、体の方向に飛んできた。なお、自走式草刈機の刈取りカバーと地面は6~6.5cmの隙間があり、この隙間から小石が飛んできて、左足に当たった。(自走式草刈機の刈取り高さは4段階のうち3段目の高さで、前進の高速で草刈作業を行っていた。)



作業時、傾斜地では自走式草刈機を横歩きで使用するが、傾斜がそれほどきつくなかったため、歩きやすい前進で使用していたので石が機体の真後ろの方向に飛んできた。

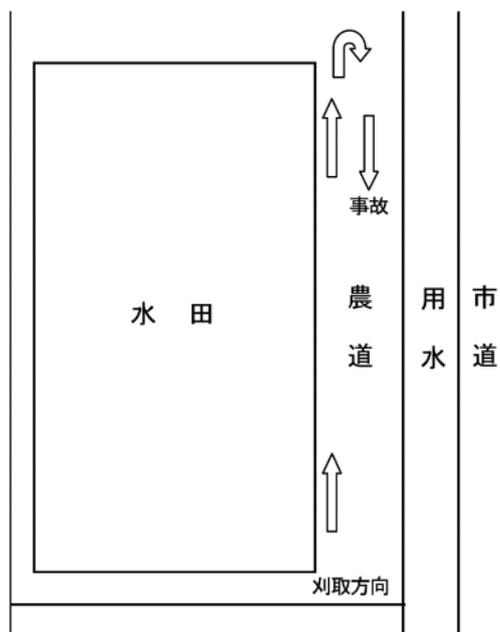
自走式草刈機で畦の草刈中、小石がはねて右足に当たり、右足親指骨折。

(平成26年6月上旬 農道 11時頃 男性・56歳)

事故の概況

朝7時頃から自走式草刈機（ウイングモア）で畦や農道の草刈作業を行っていた。水田側の斜面をウイングモアの刈り刃を下ろして刈り、帰りに刃を平らにして刈っていたところ、畦にあった小石が運転席側に飛んできて右足に当たった。痛みがあり、午後の作業を続けることができなくなった。

足に痛みがあったが、草刈作業は続け12時頃トラックで家に帰った。午後は痛みがあり足が腫れてきたので、作業をやめ家で休んでいた。翌日になって腫れと痛みが引かず医者に行き診察を受けたところ、右足親指の骨折と診断され、ギブスで足の指を固定した。



事故原因と対策

今まで石が飛んできたことがなかったので、特に石があると危ないとの注意をしていなかった。刈取り速度は高速（2段変則のうち高速）、刈り取りの高さは下から2段目（高さ調整は4段）にしていた。安全靴とすね当てを購入して着用するようにした。すね当ては軽くて作業に支障がないが、夏は暑くて足がむれて、我慢しながらの草刈作業となった。

このような構造の機械の宿命かもしれないが、飛び石がない構造の工夫ができないものだろうか。



使用していたウイングモア



現在も傷跡が残る

